



ホットな
福祉情報誌

はあとふる ふくしま

特集

介護サービスの質を上げていくために
～介護助手等普及推進事業について～

シリーズ

[未来へつなごう“ふくしま”から]
特別編 令和6年度瓜生岩子賞受賞者の横顔

みんなで三輪車楽しいね！
冬晴れの空の下、
広い園庭で子どもたちは
元気いっぱい！

(にこにこども園・富岡町)



目の不自由な方のために「はあとふるふくしま」は音訳版および点訳版を作成しています。



「はあとふるふくしま」は作成経費の一部に、共同募金配分金及び特別賛助会員の寄付金を使用しています。

介護サービスの質を上げていくために ～介護助手等普及推進事業について～

急激な人口減少と少子高齢化などの影響により、介護業界でも人材不足が深刻化しています。そこで注目されているのが、専門的な知識や資格を必要とせず、多様な人材が活躍できる「介護助手」の採用です。今回の特集では、導入効果の分析や介護助手を採用した施設の事例についてご紹介します。



介護助手とは

これまで介護職員が対応していた清掃やシーツ交換、配膳といった補助的な業務をサポートするスタッフのことで、施設利用者の身体介護など、直接的な介護業務は行いません。施設により「ケアアシスタント」「生活支援員」などと呼ばれることもあります。

チェック

「介護助手」導入の効果検証調査報告書は福島県福祉人材センターのホームページでご覧いただけます。

- ① 福島県福祉人材センターにアクセス
- ② 下へスクロール
 - ➔ お仕事library
 - ➔ 調査報告書
 - ➔ 2024/03/27 アップの記事をクリック



子准教授にお話をうかがいました。

介護助手の導入により、介護職の労働環境・サービスの改善が見られたという報告もあり、県社協では、令和5年7月に介護助手導入の効果検証をアンケート調査により実施しました。調査の詳細については、アドバイザーを務めた郡山女子大学の廣野正

を抱える方など、多様な人材が活躍しています。

介護助手の雇用形態は主に短時間のパートタイムなどであり、ライフスタイルや体力に応じて働けるため、地域の元気な高齢者や主婦、学生、障がい

まで170施設で410名が採用されています。介護助手の雇用形態は主に短時間のパートタイムなどであり、ライフスタイルや体力に応じて働けるため、地域の元気な高齢者や主婦、学生、障がい

福祉・介護の分野において「慢性的な人材不足」は大きな課題であり、これらの改善のため福島県社会福祉協議会（以下「県社協」）は令和2年度から「介護助手等普及推進事業」に取り組んでいます。介護助手の導入を検討している施設等への訪問を

■ 福島県社協では令和2年度より
介護助手の導入に向けた事業を展開



介護助手に関するアンケート調査より コミュニケーションの活性化や 業務負担減でサービスの質が向上



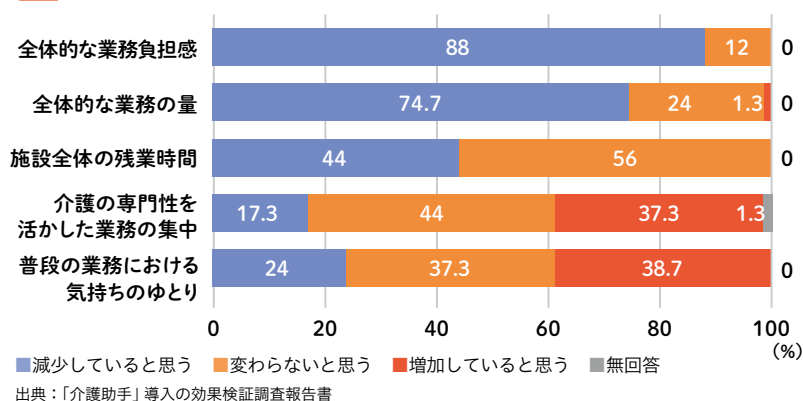
郡山女子大学
家政学部 生活科学科
ひろの まさこ
廣野 正子 准教授

■ 介護助手の導入で 見えてきた効果

県社協では、廣野准教授の協力のもと、介護助手導入による効果を検証するため、県内844の介護施設等に「介護助手に関するアンケート調査」を実施しました。結果について廣野准教授は「介護助手の雇用ありと回答した施設は、雇用なしの施設に比べて、職員の精神的健康や仕事への満足度が高まる傾向にありました。一部の職員はストレスの感じ方が軽減しているとみられ、介護助手の存在が職員・施設にとってプラスに働いていると言えます」と、導入の成果を分析しています。

また、介護職員の業務量が整理されて働きやすくなったという点に加え、介護職員にとって介護助手が身近にいることは精神的に好影響があるといえます。さらに、介護助手

図1 介護助手導入による効果



出典：「介護助手」導入の効果検証調査報告書

とのコミュニケーションが仕事の励みの一つになっていることも見えてきました。 **図1**

■ 介護助手導入の メリット・デメリット

調査では、介護助手導入の具体的なメリットとデメリットも明確になりました。介護職員からは、周辺業務の負担が減ることで「利用者へのケアに集中できるようになった」という回答が多くあり、専門性を発揮できる機会が増え、サービスの質の向上につながっています。これらは

介護助手導入によるメリットの例

- 介護業務に集中できる
- 職員の残業が減少した
- 職員の有給休暇の取得日数が増加
- 利用者の満足度向上につながる
- 施設内がとてもしきれいになった



「職場環境の改善」と「利用者の満足度の向上」にも結びついていて、大きな利点となっています。

一方、デメリットとしては、「職員間のより丁寧なコミュニケーションが必要」「介護助手に頼り、介護職員の周辺業務への自主性が薄れてしまふ」などの声が寄せられました。

これらについて廣野准教授から「ぜひ積極的に職員間でコミュニケーションをとっていただきたいと思います。介護助手に限らず、職員の定着や職場環境改善のために、施設全体で取り組んでいくことが必要です」とコミュニケーションの重要性についてもうかがうことができました。

■ さまざまな人材が働ける 環境づくりが大切

廣野准教授は、「改革に取り組むのは大変ですが、長期的に見れば施設を良くするきっかけになります。人材不足対策にはICT技術の活用が叫ばれる時代ですが、介護は人間の手と目が欠かせない仕事です。今後は介護助手のように、さまざまな人が働ける環境づくりが大切です」と人材確保の重要性を話してくれました。

介護助手として用務職員を採用した施設
**多様な人材の採用により介護職員の業務が改善
 施設全体がいきいきと！**
 取材協力・社会福祉法人矢祭福祉会 特別養護老人ホームユーアイホーム（矢祭町）



施設長
 かなざわ けんじ 金澤 健至 さん

■ **人材不足解消のため
 高齢者、障がい者
 計5名を採用**

ユーアイホームでは、約20年前から用務職員として介護助手を雇用していましたが、定着しない時期が長く続いていました。「コロナ禍になり、週に1回掃除に来てくれていたボランティアも来られなくなっていました。介護職員の採用も思うようにいかなかったことから、人材不足を解消しようと令和3年3月から、年齢や経験を問わず、高齢者の方を介護助手として3名雇用することにしました」と施設長の金澤さん。



介護助手（左から）
 しぶや よしこ 滋谷 洋子 さん、
 なぐら えみ 長倉 恵美 さん、
 やたべ えつこ 谷田部 悦子 さん、
 はしもと かつや 橋本 勝弥 さん、
 ほんだ くにえ 本田 邦恵 さん

その方々と障がい者雇用の2名を含めた計5名の皆さんに、掃除、洗濯、送迎といった業務をそれぞれの適性に応じて分担してもらっています。介護助手を5名体制にしてからは、介護職員が本来の業務に専念できるようになったとのこと。介護助

手のおかげで介護職員が定時に帰宅でき、リフレッシュして翌日も元気に介護業務に取り組んでいます。

■ **一人一人の適性に合わせて
 できる業務を任せて
 改善を図っていく**



総括主任兼生活相談員
 いながわ くみこ 稲守 久美子 さん

「介護助手の業務内容については、本人の適性や体調などのバランスを見ながら決めていますが、できるよくなったらどんどん広げたり、つまずいたら様子を見たりというように、その都度調整しています。最近ではそれぞれの仕事のやりやすさや意欲などを尊重し任せることもあり

ます」と話すのは、介護助手を総括する生活相談員の稲守さん。また、障がい者雇用の方に関しては、毎月障がい者の就労支援事業所の支援員が面談し、アドバイスを受けて業務の改善を図っています。

稲守さんは勤務シフトを作成する際、5人の希望を優先しつつ、全員

の休みが同じ日にならないように調整し、休みの日のフォロー体制も決めています。

「以前は、介護部門の管理者のもとで業務を行っていた時期もありましたが、試行錯誤の結果、主な業務を掃除や洗濯に絞り込み、介護とは切り離れた部門として部署を独立させました」と稲守さん。介護職員が現場で気づいた要望なども、稲守さんを経由して介護助手に伝え、状況を把握できるようにしたこと、日々の業務がスムーズに進むようになりました。

■ **自分らしく無理せず
 働けることが生きがいに**

毎日大量の洗濯物をたたみ居室へ届ける業務を担当している介護助手の本田さん。右手の障がいを感じさせない手つきで次から次へと洗濯物



洗濯物をたたむ本田さん(左)を
谷田部さん(右)らがサポート

同じく介護助手の谷田部さんは、朝出勤すると洗濯物をたたむサポートをしてから、居室や廊下の清



介護助手の谷田部さん(左)、
本田さん(右)

をきれいにたたんでいきます。「仕事に慣れてきました。皆さんの協力がなしにはやっていけないので感謝しています」と話します。たくさん洗濯物が片付いていくのが気持ちいいといい、今後は勤務時間を増やしていきたいと抱負も語ってくれました。



手際よく居室内を清掃する谷田部さん

「以前は、介護職員が掃除も洗濯もすべて行っていて、いつも時間に追われていました。今は介護助手がいてくれることで、利用者さんに関わる時間が増えレクリエーションや外出支援にもより力を注げるようになった

■ 介護助手がいることで 充実する介護業務

掃を行います。以前は病院で清掃業務を行っていたそうで、流れるようにてきぱきと掃除していきます。「職員の皆さんはやさしく、掃除しているとねがらいの言葉をかけてくれます。和やかな雰囲気でも働けます。和やかな雰囲気でも働けます。利用者です」と谷田部さん。利用者の方々とのお話も楽しみだそう、仕事にやりがいを感じていることを話してくれました。

■ 施設の魅力が
地域に広がる

今年設立30周年を迎えたユーアイホームは、職員数が過去最多を更新したそう。「介護助手を採用したこ

「介護助手の皆さんは毎日一生懸命働いてくれています。依頼すれば、臨機応変に対応してくれてとても助かっています」とのこと。以前は介護職員が業務に追われると、そのフォロワーに入ることも多かったという永山さん。その言葉からは、利用者へのケアをはじめ、介護職員への指導などに、より専念できていることに対する介護助手への感謝の気持ちが伝わってきました。



介護福祉士
介護主任
ながやま かおり
永山 香織さん

りました」と介護主任の永山さん。時間の余裕が心にゆとりをもたらすし、利用者さんの話にしっかりと耳を傾けケアをすることで、利用者さんも介護職員も笑顔が増えたように感じていると言います。

介護助手を採用したい、福祉の仕事に関心のある方は 福祉人材センターまでご相談ください！



福祉人材センターでは「介護助手導入の実践事例集」や「介護助手導入の手引き」をホームページ上で公開しています。また、介護助手をはじめ福祉のお仕事に関心のある方へ情報提供や就職のサポートをしておりますので、ぜひご活用ください。



お問い合わせ先 福島県福祉人材センター
TEL：024-521-5662 受付時間：平日午前9時～午後5時まで

とで、介護職員の業務が充実しただけでなく、ユーアイホームで働く魅力が口コミで地域に伝わり就業希望者の増加にもつながっています」と金澤施設長。利用者と話したりふれあったりする時間が増えたことで介護職員の満足度も高まっているとのこと。多様な人材を介護助手として導入したことで施設全体に好循環が生まれています。

明治から令和へ 脈々と受け継がれる創設者の精神



特別編

令和6年度 瓜生岩子賞 受賞者の横顔



受賞法人
社会福祉法人 福島愛育園 (福島市)

今回お話を聞いた理事長の吉岡棟憲さん(右)と事務長の齋藤秀紀さん。「瓜生岩子刀自のことを知らない人もいますので、もっと広めていきたいです」とお二人は話します。

瓜生岩子うりゆいわこ※刀自(文政12年(1829年)〜明治30年(1897年))は、現在の喜多方市に生まれ、孤児救済のための育児院や貧困者向けの済生病院の開設等、その生涯を献身的に社会福祉のために捧げた本県が生んだ社会福祉事業の先覚者です。福島県社会福祉協議会ではその遺徳をしのび、偉業を後世に伝えるため、その精神にふさわしい功績のあった方々を毎年顕彰しています。

第32回となる本年度は、令和6年11月14日に開催した福島県社会福祉大会(会場・郡山ユラックス熱海)において表彰された「社会福祉法人福島愛育園」をご紹介します。

130年の長年にわたり、
3,200名を超える児童を養育

今回瓜生岩子賞を受賞した社会福祉法人福島愛育園。児童福祉及び地域福祉の向上と瓜生岩子刀自の啓発活動の功績で受賞しました。同園の歴史は古く、明治26年(1893年)に前身である「福島鳳鳴会」として福島市に設立されました。「福島で孤児等を救うための活動を続けていた瓜生岩子刀自が設立したのが当法人です。その名を冠する賞を受賞できて最高の喜びです」と話すのは理事長の吉岡さん。法人では、様々な理由で家庭を離れた児童を養育している児童養護施設と保育園などを運営し、近年は家庭的養育の柱となる地域小規模児童養護施設を福島市内に2か所開設しています。「人は皆、他人の不幸を平気で見るには耐えら

※刀自：高齢女性の尊称



福島愛育園がある福島市・田沢地区の方と一緒に農作業を行う園児たち。

れない心がある」という意味の言葉である「仁慈隠愴」という理念を掲げ、130年余にわたって、社会情勢の変化に対応しながら3,200名を超える児童を養育してきました。「創立当初は支援団体がなく、篤志家の方々が寄付や寄贈などをして、支援していただいたそうです」と事務長の齋藤さんは教えてくれました。福島愛育園が地域で活動を続けていく中で、地元の方々を中心とした「園友会」という後援団体が発足し、現在では児童と一緒に食農体験を行うなど法人を側面から支えてくれています。



赤い羽根で ささえあい

社会福祉法人 福島県共同募金会

〒960-8141 福島市渡利字七社宮 111 (福島県総合社会福祉センター内)
電話 024-522-0822 FAX 024-528-1234
メールアドレス akaihane@axe.locn.ne.jp
ホームページ https://akaihane-fukushima.or.jp/

福島県共同募金会にお寄せいただいた赤い羽根共同募金は、福島県内の福祉活動を支援するために役立てられています。今回は、みなさまの温かいご寄付により行われた活動をご紹介します。



福島県視覚障がい者福祉協会 (福島市)

助成事業名: 視覚障がい者のための「iPhone教室」開催事業

「iPhone」の使い方を学び、 情報バリアの解消をめざす

赤い羽根共同募金の配分金を頂き、県内の視覚障がい者を対象にコロナ感染対策を行いながら「iPhone」の使い方に関する訪問指導を行いました。視覚障がい者は移動に困難さを抱えておられる方が多く、講師が自宅を訪問し自宅のWi-Fi環境で自己の機器を使用して操作を覚えることができますので、本協会の訪問指導は好評です。実際に学習された方からは、「大変勉強になった」「便利な使い方が分かった」などの感想を頂いており、有意義な訪問指導になったものと思います。

また、福島市内の会場において、専門的な知識・技能を有する講師を招いた「iPhone教室」を開催することもできました。

今後も当協会が主催する各種教室や訪問指導などを積極的に広報し、一人でも多くの視覚障がい者が抱える情報障がいのバリア解消に貢献してまいりたいと考えております。寄付者の皆さま、ありがとうございました。



iPhone教室の様子。実際に操作をしながら「Voice Over」という画面を読み上げる機能を体験しました。



瓜生岩子刀自のお墓参りを行う新任職員。東日本大震災や新型コロナウイルスが蔓延する中でも毎年続けてきました。



「瓜生岩子顕彰特別講演会」の様子。①講師の宝井琴桜さんが講演を行い、②東京大学名誉教授の島園進さんが「瓜生岩子に学ぶこれからの社会福祉」と題して講演を行いました。

創設者の精神を
これまでも、これからも。

園では創立130年を迎えたことを機にいくつかの記念事業を行いました。その一つが令和4年11月に福島市の長楽寺で行った「瓜生岩子顕彰特別講演会」です。長楽寺は瓜生岩子刀自が移り住み、教育所設立の運動に没頭したというゆかりの地でもあります。「当日は講師の方に『瓜生岩子伝』というタイトルで話していただき、県内外からも多くの参加者がありました」と吉岡理

事長。瓜生岩子刀自の精神を伝える絶好の機会となりました。また、福島愛育園では新任職員研修の一環として、瓜生岩子刀自のお墓参りを行っています。「お墓がある喜多方市の示現寺と瓜生岩子記念館に行き、瓜生岩子刀自について学びます。新しく入ってきた職員にもその精神を学んでほしいという意味で毎年行っています」と齋藤さん。見ず知らずの孤児や貧困に喘ぐ方を救済してきた創設者の精神は明治・大正・昭和・平成そして令和と脈々と受け継がれています。



県社協からのお知らせ

第78回福島県社会福祉大会が開催されました

去る11月14日(木)に郡山ユラックス熱海(郡山市)において第78回福島県社会福祉大会を開催いたしました。

今回は受賞者と一般参加者併せて約1,000名の皆さまにご参加いただきました。

記念講演では、認定NPO法人自立生活センター・もやい理事長の大西 連氏より「誰一人取り残されない地域社会を目指して」と題しお話しいただきました。

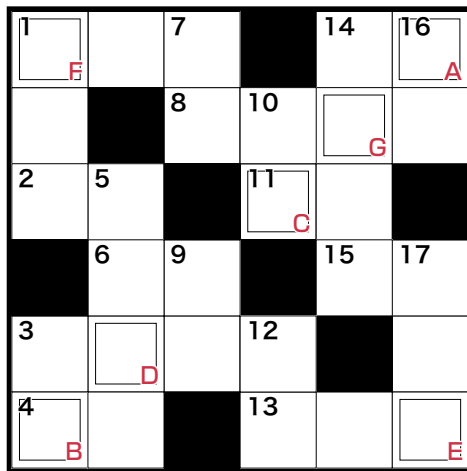
式典では、県知事の感謝393個人・団体、大会会長の表彰・感謝207個人・団体、県社会福祉協議会会長の表彰・感謝55個人・団体、赤い羽根共募運動スローガン受賞者9名

の方々に、表彰状の授与及び感謝状の贈呈が行われました。また、第32回目となる瓜生岩子賞は、社会福祉法人福島愛育園様が受賞され、代表として理事長の吉岡 棟憲様に表彰状と楯が贈呈されました(活動の詳細はP6~7『未来へつなごう“ふくしま”から』で紹介)。

その後、大会宣言において、私たち社会福祉関係者が、県民の理解と参加のもと、共につながり支えあう「ふくしまの地域共生社会づくり」の実現に努めていくことを参加者全員で誓い、来年会津若松市で開催予定の第79回大会に引き継ぎました。



クロスワードにチャレンジ!



全部できたら二重ワクの文字をABC順に読んでいくと、それが答えです。



ヨコのカギ

- 1 ダーウィンが提唱しました
- 2 血と〇〇と涙の結晶
- 3 電話に出んわ。布団が吹っ飛んだ
- 4 ⇄ アウト
- 6 ヨコ⑬で調べます
- 8 グッドサインで立てます
- 11 〇〇に入っては〇〇に従え
- 13 我が輩の〇〇〇には不可能の文字は無い
- 14 エレベーターで「R」は屋上、では「B」は?
- 15 大陸よりも小さい陸地

タテのカギ

- 1 ⇄ ジュニア
- 3 〇〇は小を兼ねる
- 5 1月の第2月曜日は何の日?
- 7 〇〇から火が出る。仏の〇〇も3度
- 9 神社のこと。お〇〇参り
- 10 トンボの幼虫
- 12 最近のスーパーではセルフが増えました
- 14 とりやめること。雨天〇〇〇〇
- 16 発酵食品やペニシリンなど良い働きもする
- 17 ほづきに乗って空を飛びます

応募方法

ハガキまたはEメールにパズルの答えと ①住所、氏名(ふりがな)、年齢、電話番号、業種 ②本誌に対するご意見、ご感想、ご要望を全てご記入の上、ご応募ください。

締切

令和7年2月14日(金)

宛先

〒960-8141 福島市渡利字七社宮111
社会福祉法人 福島県社会福祉協議会「はあとふる・ふくしまパズル係」

メールでの応募はこちら!



正解者の中から
抽選で3名に
プレゼントが当たる!



今月のプレゼント

共働作業所ピーターパン
(会津美里町)

マドレーヌやクッキーが盛り
だくさんの焼菓子のセット

当選者の発表は商品の発送を
もって代えさせていただきます。

多数のご応募ありがとうございました

12月号の
正解

「チイキトモニ」
(地域と共に)

※ご記入の個人情報適切に管理し、目的以外に
使用しません。

※本誌に対するご意見、ご感想、ご要望の一部
は、「読者のおたより」に掲載させていただく
場合もございます。

11月号に寄せられた 読者のおたよりから

民生委員をしております。毎月楽しみに読ませていただいています。今回は、福祉教育に取り組んでいる高校生に感動しました。(65才 パート)

「幅広い世代がふれあうことで地域が元気になる」——いい言葉ですね。本当にその通りだと思います。ふれあえる地域にしたいです。(68才 主婦)

民生委員として8か月になりますが、何も知らない私には本誌が先生です。これからよろしく願っています。(70才 無職)

編集後記



福祉人材課
戸次 恵

取材で伺った特別養護老人ホームユーアイホームの中庭に干し柿がつるしてあり、子どもを思い出しました。利用者さんと職員さんがつくったものとのことでした。ポストコロナとは言いますが、まだ制限が残る生活の中にも季節を感じる行事やていねいな手仕事の文化を大切にしたいなと感じたひと時でした。